



# 邑南町布施地区

## 「銭」と「宝」が生きる暮らしづくり

布施地区は、「銭(地域資源)」と「宝(人・組織)」が生きる里として、地域の方々は「銭宝地区」と呼び親しんでいます。小さな地区だからこそそこで暮らす一人一人の悩みを拾い上げることができ、誰かが困っていることを“地域のこと”として考えることで誰もが住みやすい地域を目指して活動を進めています。

### これまでの地区のあゆみ

- H16.3 「夢づくりプラン(地域計画)」を策定
- H16.10 合併で瑞穂町から邑南町に
- H24 「元気はつらつプロジェクト委員会」を立ち上げ  
「実施計画(H24～H27)」を策定  
地域マネージャーを配置し事務局体制の確立
- H28 「銭宝地区別戦略実行委員会」として組織を再編  
「実施計画(H28～R1)」を策定  
各部会を立ち上げ役割分担を明確に
- H29 県の現場支援地区に選定  
(H29.8～R2.3)
- H30 空き家を活動の拠点として改修し、サロン活動を開始
- H31 生活支援の活動を行う  
「銭宝の暮らし応援隊」を結成
- R2 「配食サービス」を開始  
「実施計画(R2～R6)」を策定



銭宝の寄り合い処「田屋」

### Step 小さな拠点づくりのステップ

#### step.1 課題 これからの地域を想像する

瑞穂町が合併で邑南町になる前の平成16年2月、3つの集落が1つの自治会となり、公民館を中心にしてまとまりを見せるように。人口減少・少子高齢化が進んでいく中で何かできることはないかと、幅広い世代を集めて地域にどんな課題があるか、それを解決するためにどういった取組が必要かなどについて話し合いました。

#### step.2 計画 みんなの思いを一つに

住民が考える「地域をどうしていきたいか」を自治会が中心となってまとめ、「夢づくりプラン(地域計画)」をつくりあげました。その後は、今取り組むべき課題をみんなで考え、その都度、具体的な実施計画を策定しています。

#### step.3 体制 ブレない組織を目指して

体制の中心となっていた自治会の役員は数年で交代してしまい、描いていた長期的な取組はなかなか進みませんでした。そこで、地域計画の策定から関わっている人を中心として地域運営組織を立ち上げ、事務局には町の事業を活用して地域マネージャーを置くことで、推進体制を確立。その後、3つの部会を立ち上げて、役割分担を明確にして取り組みました。自治会とは、定期的に話し合う場を設けることで連携を図っています。

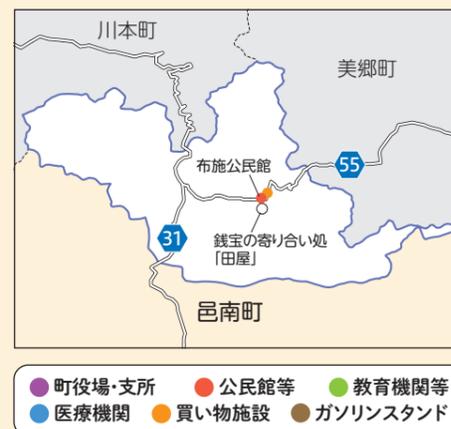
#### step.4 実践 徹底して生活に密着した取組を

最初に取り組んだのは集いの場づくり。1人だと疎かになりがちで、食や運動に目を向けて、昼食会と体操を組み込んだサロンを始めました。その後、「銭宝の暮らし応援隊」を結成し、生活支援に取り組んでいます。



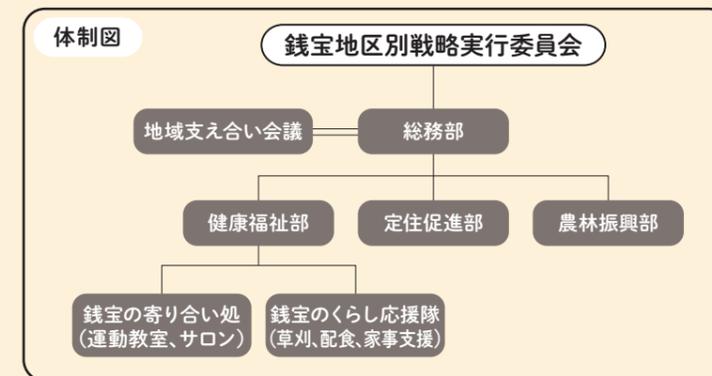
#### step.5 発展 誰もが住みやすい地域へ

今後はさらに視野を広げて「交通」にも目を向けています。公共交通機関では自由に移動することが難しく、好きな時に好きな所へ行ける仕組みづくりができればと考えています。



- 町役場・支所 ● 公民館等 ● 教育機関等
- 医療機関 ● 買い物施設 ● ガソリンスタンド

- 人口 164人(高齢化率 52.4%)
- 地域の特徴 ・3つの集落があり、田畑や山間部がほとんどを占める  
・国道や町営バスの停留所までが遠い



### 私たちのやり方

#### Our Project



### 食で支える「銭宝キッチン」(配食サービス)

「銭宝の暮らし応援隊」の配食部(銭宝キッチン)では、月に3回は夕食に、月に1回は昼食に希望される方へお弁当をお届けしています。地元食材をふんだんに使って作るお弁当。添えられた手紙には細やかな気配りが感じられます。配達もスタッフが手分けして行うことで、高齢者の健康状態も確認しています。利用者の喜ぶ姿を直接見ることが何よりもスタッフの励みになります。

**まちのひとの声** 1人だと偏った食事になるけど、お弁当だと種類が多くて大助かりです。

#### step.1 きっかけ

地域の困りごとを把握するために行ったアンケートで目に留まったのは「1人だと料理が面倒」という意見でした。「食」の部分に支援を行うことで高齢者の暮らしを支える取組を形にしようと考えました。

#### step.2 計画

地域の支え合い会議で話し合いを重ね、銭宝の寄り合い処「田屋」の納屋を改修し、加工場として活用することに。仕組みを考える人、調整や手続きを行う人で役割分担し、物事をスムーズに進めました。

#### step.3 トライ

配食サービスを始めるにあたって、1年間のお試し期間を設け、利用者の意見も取り入れながら試行錯誤を重ねました。スタッフは3チームをローテーションで回すなど、スタッフも無理なく関わられるよう心がけています。段々と利用者が増え、今では1回に60食ほどの注文があります。



#### step.4 これから

家庭で野菜を育てている方から食材を提供してもらおうなど、生きがいづくりにも繋げようと考えています。銭宝の思いやりいっぱいのお弁当がもっとたくさんの方の支えになるよう活動を続けていきます。

#### 「銭宝の暮らし応援隊」とは

設立のきっかけは、「草刈りなどの力仕事ができなくなった」との声。しかし、代わりに草刈りを行うとなると、数人だけでは地域全体のニーズに応えることができません。そこで、声をかけて集まった21名で「銭宝の暮らし応援隊」を結成しました。活動内容は、草刈りや配食サービス、家事支援など。取組が今後も続いていくように、利用料金を設定し、有償ボランティアとして活動しています。

#### 集ってつながる、「銭宝の寄り合い処(サロン活動)」

参加者同士のつながりづくりや健康づくりを目指し、閉じこもりがちな高齢者を対象として週に1回、銭宝の寄り合い処「田屋」でサロンを開催。スタッフお手製の昼食をみんなで食べた後には、運動士の講習を受けたスタッフの体操が始まります。地域住民も含めた地域交流サロンも開催し、高齢者と地域をつなげています。

